

「特別の教科 道徳」学習指導略案

1年 1組 32名

指導者 手塚 奈緒

1 主題名 『親切な心で』 B-(6)親切、思いやり

2 資料名 「はしのうえのおおかみ」(出典：光村図書「どうとく1 きみがいちばんひかるとき」)

3 ねらいとする価値

望ましい人間関係を築くためには、自分のことばかり考えて行動したり、自分の考えや思いだけを主張したりするのではなく、相手の立場を考えたり、気持ちを想像したりして思いやりをもって接することが大切である。そのためには、相手の存在を受け入れ、そのよさを見つけることが必要である。

小学校生活にも少しずつ慣れ、新しい友達も増えたこの時期に、身近にいる人に温かい心で接し、親切にする行為について改めて考えられるようにしたい。

4 本時の展開

○ねらい うさぎやきつねなどに意地悪をしていたおおかみが、くまに親切にされて心を入れ替える姿を通して、相手に親切にすることのよさについて考えさせ、相手のことを思いやり、優しく接しようとする意欲を育てる。

	学習活動(☆中心発問)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. これまでに、親切にしてもらった経験を発表する。 ・友達が遊びに入れてくれた。 ・けがをしたとき、声をかけてくれた。 ・教科書を忘れたとき、見せてくれた。	◇これまでの自分の経験から、自分が親切にされてうれしかった経験を振り返らせる。
展開	2. 資料「はしのうえのおおかみ」を読んで話し合う。 ○うさぎやきつねを追い返したおおかみは、どんな気持ちでしたか。 ・おれのほうが、強いんだぞ。 ・みんな怖がって、おもしろいなあ。 ・次からも、どんどん怖がらせてやろう。 ○くまに出会ったときのおおかみは、どんな気持ちでしたか。 ・こわいなあ。 ・大きく強そうだから、道をゆずろう。	◇ペーパーサートや紙芝居などを使って、お話を読み聞かせる。 ◇わざといじわるをしてしまう、おおかみの気持ちを考えさせる。 ◇大きなくまに出会ったときの、おおかみの不安な気持ちを押さえる。
	☆くまの後ろ姿を見ていたおおかみは、どんなことを考えていたでしょうか。 ・くまさんは優しいな。 ・親切にされるとうれしいな。 ・今までの自分は、よくなかったな。 ・これからは、うさぎたちに僕もしてあげよう。	◇自分に親切にしてくれたくまの後ろ姿を、いつまでも見ているおおかみの気持ちをワークシートに書かせる。 ◇ペーパーサートを使って、おおかみの気持ちを発表させる。
	3. くまやおおかみのように、自分が友達に親切にしてあげた経験を振り返る。 ・怪我をした子を保健室に連れていった。 ・落ちたものを拾ってあげた。 ・席をゆずった。	◇自分の経験を振り返り、自分自身が周りの人に親切にしたことを思い出させる。 ※身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとしたことを振り返ることができたか。(ワークシート・発言)
終末	4. 教師の説話を聞く。	◇学級で見つけた、児童の親切な行動について紹介する。

「特別の教科 道徳」学習指導略案

1年2組 33名
指導者 高木 文子

1 主題名 「かぞくのために」 (C- (1 3) 家族愛、家庭生活の充実)

2 教材名 「これならでき」(出典：光村図書「どうとく1 きみがいちばんひかるとき」)

3 ねらいとする価値について

家族は、児童にとって最も身近で、最も深く関わる小集団であり、小社会でもある。子供は家族の深い愛情に包まれて成長し、この小集団での関わりがさまざまな集団との関わり基礎となる。このように、児童にとって家族は、かけがえのない存在である。

しかしながら、1年生の段階では、家族と過ごすことの楽しさを感じてはいるものの、まだ受け身の立場であることが多く、自分から進んで家庭生活に関わろうとするところまで思いが至っていない。

そこで、自分と家族との関わりを通して、自分も家族の一員であることを自覚させ、家族の一員として積極的に家庭生活に関わり、家族の役に立つ喜びが実感できるようにしたい。

4 本時の展開

○ねらい

家庭の中で自分にできることを探して取り組むまさえの姿を通して、家族のために何かができるとき気持ちについて考えさせ、進んで家の手伝いなどをして家族の役に立とうとする実践意欲と態度を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	<p>1. これまでに家で手伝いをした経験を振り返る。</p> <p>○冬休み中、どんなお手伝いをしましたか。また、日頃、どんなお手伝いをしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の準備や後片付けをしました。 ・お風呂掃除をしました。 ・大掃除の手伝いをしました。 ・妹や弟のお世話をしました。 	<p>◇家庭でしている手伝いととも、手伝いをした際の家族の反応も思い出すよう促して、かけがえのない家族の大切さを意識させて学習意欲を高める。</p>
展開	<p>2. 「これならでき」を読んで、話し合う。</p> <p>○「これならでき」と言った時、まさえはどんなことを考えていたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんが一生懸命に夕食を作ってくれているので、おばあちゃんのお手伝いをしたい。 ・おばあちゃんを助きたい。 <p>☆まさえは、どうして、「ほかにも自分にできることを増やしたく」なったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が家族の役に立つことがわかったから。 ・おばあちゃんやお母さんに褒められて、自信がついたから。 ・家族に喜んでほしいから。 ・家族の一員としてみんなの役に立ちたいと思ったから。 <p>○あなたが、家族のために「これならでき」と思うことは、何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妹と遊ぶ。一緒に遊ぶとお母さんが助かるから。 ・ご飯の準備を手伝う。ご飯の時間を早めに行けるから。 ・洗濯物をたたむ。冬休みにやって、上手になってきたから。 	<p>◇祖母への感謝の気持ちと、何か役に立ちたいという気持ちから、自分にできることを探したまさえの気持ちに共感させる。</p> <p>◇家族の役に立て心地よい気持ちや、家族の役に立ちたいという前向きな気持ちに共感させる。</p> <p>※ 家族の一員として、家族のために自分ができたり、家族の役に立ったりすることの大切さに気付くことができたか。(発言、ワークシート)</p> <p>◇今までにしてきたこと、継続的にしていきたいこと、新しく始めたいことなどを、児童の実態に合わせて考えさせる。</p> <p>※ 家族の役に立つために、自分にはどんなことができるかについて考えることができたか。(発問、ワークシート)</p>
終末	<p>3. 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇冬休み中に生活科で調べた「家庭の仕事調べ」の感想をいくつか紹介しながら、今後も家族のために役に立ちたいという気持ちを大事にする。</p>

「特別の教科 道徳」学習指導略案

2年 1組 27名

指導者 尾崎 悟

1 主題名 『せかいのことを 知ろう』 C- (16) 国際理解、国際親善

2 教材名 「日本のお米、せかいのお米」(出典：光村図書「どうとく2 きみがいちばんひかるとき」)

3 ねらいとする価値

自国や他国の人々と触れ合う経験や文化を意識して過ごす経験が少ないことから、身の回りにある事物が、自国の文化なのか他国の文化なのかを区別することは困難である。しかしグローバル化によって日々世界中の物や情報に触れられる現代社会において、他国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化の良さに気付いたりすることはとても大切である。

本教材は、主人公がお米は日本でできたものと思っていたが、母から大昔に他国から伝わったものであることや、父親からお米がいろいろな国で食べられていることを知らされることから始まる。それを機会に世界のお米料理を調べて、それらを食べてみたいという気持ちになる。

本教材で、主人公が世界中の食文化に興味をもったように、他国の文化の良さに気づき、他国の文化に親しみをもつて接しようとする心情を育てたい。

4 本時の展開

○ねらい 世界のお米料理を調べる「わたし」の姿を通して、他の国で作られ出されたものや伝えられていることについて考えさせ、他国の文化に親しもうとする心情を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 世界の料理で、知っているものを発表する。 ○日本以外の国の料理で知っているものはありますか。 ・スパゲッティ ・カレー ・中華まんじゅう ・パエリア ・キムチ ・フォー など	◇何人かに発表させる。ねらいとする価値への方向付けをする。その際、お米に関わるものとそうでないものを上下に分けて板書し、教材への意識付けも図る。
展開	2. 教材「日本のお米、せかいのお米」を読んで考える。 ○お米が、他の国から伝わってきたことを知った「わたし」は、どんなことを思ったでしょうか。 ・びっくりした。いつも食べているから日本のものだと思いこんでいた。 ・日本以外でもお米を食べるんだ。 ・お米が日本のものじゃなかったら、どこから来たんだろう。 ・他にも伝わってきた料理があるのかな。 ☆教科書P144・P145のお米を使った世界の料理を見て、あなたは どう思いましたか。 <気付いたこと> ・たくさんあるな。 ・フォーやパンはお米に見えない。 ・お米の形や色も世界でちがう。 ・料理は似ているけれど、のせるものがちがうものもある。 <知りたいこと> ・おいしいのかな。 ・どんな味かな。 ・どうやって作るのかな。 ・他にもあるのかな。 <希望> ・食べたいな。 ・自分でも調べたい。 ・料理以外にもその国のこと知りたいな。 3. 自分自身の生活を振り返る。 ○他の国のことで、知っていることはありますか。それはどんなことですか。 ・日本人は日本語を話すけれど、アメリカの人は英語を話す。 ・日本の家はあがるときに靴を脱ぐけれど、外国では脱がない国もある。 ・日本人は昔、着物をきていたけれど、外国の人は洋服を着ている。 ・日本にはお寺や神社が多いけれど、ヨーロッパなどにはない。	◇話の内容がよくわかるように、場面絵を提示しながら教師が範読する。 ◇すっかり日本のものだと思っていたことに気付かせる。 ◇教科書P144・P145以外のお米やお米を使った加工品、お米料理も事前に調べておき、お米の料理の多様性について興味が高まるようにする。 ・<気付いたこと><知りたいこと><希望>などに分類して板書し、思いを整理する。 ・お米料理にこだわらず、国の名前なども示すことで、料理以外にも興味が広がるように促す。 ◇お米以外の他国の伝統や文化などについて考えさせるように視点を広げる。 ◇着ている服、住んでいる家、スポーツ、行事などについて、特徴のある写真を何枚か用意する。 ※日本と外国の文化の違いに気づき、文化の良さについて考えることができたか。(ワークシート・発言)
終末	4. 教師の説話を聞く。	◇車で走るときの道路の通行方向が、日本とほとんどの国とで反対になっていることを取り上げ、それには歴史や文化が深く関わっていることを伝える。

特別の教科「道徳」学習指導略案

2年 2組 27名
指導者 武井 智哉

- 1 主題名 「よく考えて」A-（3）節度、節制
- 2 教材名 「お年玉をもらったけれど」（出典：光村図書「どうとく2 きみがいちばんひかるとき」）
- 3 ねらいとする価値について

節度、節制は自分の生活を見直す中で、自分の状況を思慮深く考えながら自分を律することであり、それは社会の中で生きていくための基盤となるものである。本教材を通して、お金や物の大切さについて理解をさせるとともに、よく考えて使おうとする態度を育てたい。

4 本時の展開

○ねらい お年玉の使い道に注意されながらも、本当に必要ではないものを買ってしまった主人公の後悔の気持ちに共感することを通して、お金や物の扱い方を自分自身の生活と関連付けて考えようとする心情を育てる。

	学習活動（○発問、☆中心発問）と児童の反応（・）	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. お年玉の使い道について触れる。 ○お年玉はどのように使いますか。その理由は何ですか。 ・ゲーム ・勉強道具 ・習い事の道具	◇自分の考えやその理由を言葉にさせ、ねらいとする価値について意識を高められるようにする。
展開	2. 資料「お年玉をもらったけれど」を読んで話し合う。 ○お年玉の使い道を決めていましたが、カードを買ってしまったりょうたは、どんな気持ちでしょう。 ・みんなも買ってるし、自分も大丈夫だろう。 ・好きな選手のカードがほしい。 ・少しくらいなら。 ・友だちもたくさん買っているから自分も買いたい。 ☆スポーツショップでサッカーボールの値段を見た時のりょうたは、どんな気持ちだったでしょうか。 ・駄菓子屋でお金使いすぎた。 ・失敗した。 ・注意されたのに忘れていた。 ・ほしいものが買えなくて悔しいし自分が嫌になる。 ・たくさんあるからといって、必要なものに使うべきだったし、ちゃんと考えてから使うべきだった。 3. これまでの自分を振り返る。 ○お年玉に限らず、これまでで後先考えずに物を買ったり、使ったりして後悔したことはありませんか。 ・ほしいゲームを買ったけど、すぐに飽きてしまった。 ・鉛筆でふざけていたら壊してしまって、勉強ができなかった。	◇その場の雰囲気などから、お年玉の使い道を忘れてしまっていると感じ取れるような言葉（気の緩みや欲求など）をくみ取り、色分けなどをして意識させる。 ◇りょうたの考えや気持ちの甘さに気付かせるように、駄菓子屋の時の気持ちや「サッカーがうまくなりたい」という思いと比較して考えるように伝える。 ◇よく考えないと後で後悔したり、悲しい気持ちになったりするなど気持ちが分かる言葉には色を付けるなどをする。 ◇普段の自分と比較させるために、具体的な場面を提示するなどして考えるきっかけを作る。 ※お金や物などを使う際には、用途とその理由を吟味し、考えてから使おうとする心情をもつことができたか。（ワークシート・発言）
終末	4. 教師の説話を聞く	◇自分自身の失敗談を語り、そこから自分はどうしていこうと考えたことを伝え、児童にじっくり考える大切さへ関心を更に向けさせる。

「特別の教科 道徳」学習指導略案

2年 3組 29名

指導者 永澤 永子

1 主題名 『友だちと仲よくし、助け合う』 B- (9) 友情、信頼

2 資料名 「どっち一ぬくん」(出典：文溪堂『2年生ののどくとく』)

3 ねらいとする価値

自己中心的な部分が残っている低学年の児童は、思い通りにならないと自己主張してけんかになってしまったり、友達との関わり方がうまくいかなかったりすることがある。しかし、そのような経験をする中で、自分の気持ちの快、不快を自覚し、友達と仲良く過ごすようにするためにはどうすればいいかを学んでいく。

本資料では、主人公が友達から大事にされていないと勝手に思い込む。しかし、その後の友達の態度から、友達は、本当は自分を認め、尊重してくれていたことを感じ取り、自分勝手な気持ちに気付く姿を取り上げる。

社会でよりよく生きていくためには、互いが相手を認め尊重し、助け合っていくことが大切である。その基盤としての友情の大切さを理解させたい。

4 本時の展開

○ねらい 友達に対するどっち一ぬくん気持ちの変化を話し合う活動を通して、友達に対して勝手を通さず、仲良く遊ぼうとする気持ちを高める。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	<p>1. 友達がいてよかったと思った経験を発表する。</p> <p>○友達がいてよかったと思ったことはありますか。それはどんなときですか。</p> <p>・いっしょに遊んで楽しかったとき。</p>	<p>◇ 何人かに発表させる。ねらいとする価値への方向付けをする。</p>
展開	<p>2. 資料「どっち一ぬくん」を読んで話し合う。</p> <p>○「あそぶぞ、あそぶぞ。」と言っているどっち一ぬくんは、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>・みんなと楽しく遊びたい。</p> <p>・天気がいいし、早く遊びたい。</p> <p>○友達に「終わるまでまって」と言われ泣きながら草の上に寝転んだどっち一ぬくんは、どんなことを考えたでしょう。</p> <p>・みんなにとってぼくは、友達ではないんだ。</p> <p>☆みんなに「友達より大事なものなんてあるわけじゃない」と言われたどっち一ぬくんは、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>・友達を悪く思ったことが恥ずかしい。</p> <p>・うれしい。</p> <p>3. 自分の生活を振り返る。</p> <p>○友達がいたから頑張れたことがありますか。それはどんなことですか。</p> <p>・鉄棒ができなかったとき、応援してくれたりコツを教えてくださいましたので、できるようになった。</p> <p>・漢字練習を一緒にしてくれて、覚えられた。</p>	<p>◇ 天気のいい日に心が浮き立ち、早く友達と遊びたいどっち一ぬくに共感させる。</p> <p>◇ 話の内容がよくわかるように絵本を電子黒板に写して読み、場面の絵を提示していく。</p> <p>◇ 動作化を取り入れ、どっち一ぬくんの立場になって考えられるようにする。</p> <p>◇ 友達がいてよかったと思うどっち一ぬくに共感させる。</p> <p>◇ どっち一ぬくんの気持ちを自分で考えた後、意見交流をし、様々な考えがあることに気付かせる。</p>
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇ 友情に関わる話を紹介する。</p>

「特別の教科 道徳」学習指導略案

3年 1組 36名
指導者 守友 頌子

- 1 主題名 『よいと思ったことは』A- (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
- 2 教材名 「よわむし太郎」(出典：光村図書『どうとく3 きみが いちばん ひかるとき』)
- 3 ねらいとする価値について

現代は、価値観の多様な社会といえる、その中でよりよく生きていくためには、物事の善悪を自分自身で的確に判断し、正しいと信じる場所に従って主体的に行動することが大切である。

物事の善悪を的確に判断するためには、人として行ってよいこと、行ってはならないことを自ら区別する力を身に付けておく必要がある。人に左右されることなく、自らが正しいと信じる場所に従って行動する力も重要であろう。

また、正しくないと考えられることを人に勧めないのはもちろん、正しくないと考えられる行動をしている人を止める勇気も大切にしたい。

4 本時の展開

- ねらい 心優しいよわむし太郎が、殿様から白い鳥を守る姿を通して、よいと思ったことを行うときに大切なことについて考えさせ、正しいと信じることを行い、正しくないと判断したことを止めようとする心情を育てる

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 教材名から想起することを発表する。 ○「よわむし太郎」とは、どんな人だと思いますか。 ・すぐ泣く。 ・怖がり。 ・意気地なし。 ・臆病。	◇教材名から思い浮かべる人物像を、クラスで簡単に共有し、興味・関心をもたせる
展開	2. 資料「よわむし太郎」を読んで話し合う。 ○殿様の前に立ちはだかったときの太郎は、どんな気持ちで行動したのでしょうか。 ・白い鳥を撃たないでほしい。 ・白い鳥は友達だ。 ・子供たちを悲しませたくない。 ☆「お前も鳥といっしょにしとめてしまうぞ。」と言われても動かなかった太郎は、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・白い鳥が撃たれたら子供たちが悲しんでしまう。 ・本当は怖いけど、逃げるわけにはいかない。 ・正しいことをしているのに、ここで逃げたら後悔する。 ○「よわむし太郎」という名前が消えたのは、どうしてだと思いますか。 ・怖いのを我慢して殿様に頼んだおかげで、白い鳥の命が助かったから。 ・太郎はよわむしではなく、子供たちのために勇気をもって頼んでくれた、とても心の強い人だと気が付いたから。	◇鳥を守るために殿様に立ちはだかった太郎の強さを感じ取らせるために、発問の前に子供たちからかわれても、いたずらされても怒らない太郎のおおらかさについてクラスで確認する。 ◇殿様に脅されても逃げず、自分が「よくない」と判断したことを行動に表す太郎の勇気を捉えさせる。 ◇できるだけ多くの児童が発言できるようにする。 ◇ここまで考えてきたことを基に、太郎の心の強さを捉えさせる。
終末	3. 教師の説話を聞く。	※正しいと信じたことであれば、自分より強い相手でも立ち向かおうとする太郎の行動に気づき、記述している。(ワークシート・発言)

「特別の教科 道徳」学習指導略案

3年 2組 35名
指導者 金井 俊賢

- 1 主題名 『よいと思ったことは』A- (1) 善悪の判断、自律、自由と責任
- 2 教材名 「よわむし太郎」(出典：光村図書『どうとく3 きみが いちばん ひかるとき』)
- 3 ねらいとする価値について

現代は、価値観の多様な社会といえる、その中でよりよく生きていくためには、物事の善悪を自分自身で的確に判断し、正しいと信じる場所に従って主体的に行動することが大切である。

物事の善悪を的確に判断するためには、人として行ってよいこと、行ってはならないことを自ら区別する力を身に付けておく必要がある。人に左右されることなく、自らが正しいと信じる場所に従って行動する力も重要であろう。

また、正しくないと考えられることを人に勧めないのはもちろん、正しくないと考えられる行動をしている人を止める勇気も大切にしたい。

4 本時の展開

- ねらい 心優しいよわむし太郎が、殿様から白い鳥を守る姿を通して、よいと思ったことを行うときに大切なことについて考えさせ、正しいと信じることを行い、正しくないと判断したことを止めようとする心情を育てる

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 教材名から想起することを発表する。 ○「よわむし太郎」とは、どんな人だと思いますか。 ・すぐ泣く。 ・怖がり。 ・意気地なし。 ・臆病。	◇教材名から思い浮かべる人物像を、クラスで簡単に共有し、興味・関心をもたせる
展開	2. 資料「よわむし太郎」を読んで話し合う。 ○殿様の前に立ち上がったときの太郎は、どんな気持ちで行動したのでしょうか。 ・白い鳥を撃たないでほしい。 ・白い鳥は友達だ。 ・子供たちを悲しませたくない。 ☆「お前も鳥といっしょにしとめてしまうぞ。」と言われても動かなかった太郎は、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・白い鳥が撃たれたら子供たちが悲しんでしまう。 ・本当は怖いけど、逃げるわけにはいかない。 ・正しいことをしているのに、ここで逃げたら後悔する。 ○「よわむし太郎」という名前が消えたのは、どうしてだと思いますか。 ・怖いのを我慢して殿様に頼んだおかげで、白い鳥の命が助かったから。 ・太郎はよわむしではなく、子供たちのために勇気をもって頼んでくれた、とても心の強い人だと気が付いたから。	◇鳥を守るために殿様に立ち上がった太郎の強さを感じ取らせるために、発問の前に子供たちからかわれても、いたずらされても怒らない太郎のおおらかさについてクラスで確認する。 ◇殿様に脅されても逃げず、自分が「よくない」と判断したことを行動に表す太郎の勇気を捉えさせる。 ◇できるだけ多くの児童が発言できるようにする。 ◇ここまで考えてきたことを基に、太郎の心の強さを捉えさせる。
終末	3. 教師の説話を聞く。	※正しいと信じたことであれば、自分より強い相手でも立ち向かおうとする太郎の行動に気づき、記述している。(ワークシート・発言)

「特別の教科 道徳」学習指導略案

4年 1組 36名

指導者 矢野 篤彦

- 1 主題名 「大切ないのち」D- (18) 生命の尊さ
- 2 教材名 「生きているしるし」(出典:光村図書「道徳4 きみがいちばんひかるとき」)
- 3 ねらいとする価値について

行動範囲も広がり、活発なことを好むこの時期に、衝動的な行動で危険に巻き込まれることのないよう、自分の命の大切さを自覚し、同じように他者の命を大切にする心情を育てることが大切である。今回の学習を通じて、自分の命は多くの人々の支えによって育まれているということに気付き、日々をより大切に、精一杯生きていこうとする態度を育てたい。

4 本時の展開

○ねらい 自分が生まれたときのことを聞いたちえ子が考えを巡らせる姿を通して、一人一人の命の大切さについて考えさせ、多くの人々に支えられている尊い命を大切にしていこうとする心情を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	<ol style="list-style-type: none"> 1. 命の大切さを感じる時のことを思い出す。 ○命の大切さを感じる時はどんな時ですか。 ・けがをしたり、病気になったりした時。 ・災害や事故などのニュースや記事を見た時。 	◇児童が普段の生活を思い起こし、ねらいとする価値について意識を高められるようにする。
展開	<ol style="list-style-type: none"> 2. 資料「生きているしるし」を読んで話し合う。 ○「わたしと全然にないわ」とつぶやいたとき、ちえ子はどんなことを思っていたでしょうか。 ・楽しみにしていたのに…。 ・しわくちゃだな。 ・泣いてばかりだな。 ・想像していたのちがうな。 ○お父さんの話をきいて、ちえ子は、どんなことを考えたでしょうか。 ・お父さんは、わたしの泣き顔をよろこんでくれたんだ。 ・元気に泣くのは、生きているあかしなんだな。 ・生きているってすごいことなんだな。 ☆わたしたち一人一人の命は、なぜ大切なのでしょう。 ・生まれてくるのがきせきだから。 ・自分一人の命ではないから。 ・たくさんの人に支えられているから。 ・失ったら二度ともどらないから。 3. これまでの自分を振り返る。 ○自分の命が守られているように、自分にも守っていきたい命はあるでしょうか。 ・家族の命。 ・弟や妹の命。 ・ペットや草花の命。 	<p>◇ちえ子が、赤ちゃんに会いに病院へ行く日の様子に着目させ、見た目の印象だけで判断するちえ子の見方を押さえる。</p> <p>◇ちえ子が成長できたのは、父親や母親をはじめ、周りの人々が愛情をこめて支えてくれたからであると気付いたり、ちえ子自身も妹の命を見守り支える存在であることに気付いたりできるようにする。</p> <p>◇教材文を通して、ちえ子の考えの変化を追いながら、生命の尊さについて考えを深めてきたことを基に、命がなぜ大切なのかを自分に照らして考えられるようにする。</p>
終末	<ol style="list-style-type: none"> 4. 教師の説話を聞く。 	◇自身が大切にしていきたい命について話し、児童が命を大切にしていこうとする意欲を高める。

「特別の教科 道徳」学習指導略案

4年 2組 39名

指導者 中村 めぐみ

- 1 主題名 「大切ないのち」D - (18) 生命の尊さ
- 2 教材名 「生きているしるし」(出典：光村図書「道徳4 きみがいちばんひかるとき」)
- 3 ねらいとする価値について

行動範囲も広がり活発なことを好むこの時期に、衝動的な行動で危険に巻き込まれることのないよう自分の命の大切さを自覚し、同じように他者の命を大切にできる心情を育てることが大切である。今回の学習を通じて、自分の命は多くの人々の支えによって生まれているということに気づき、日々をより大切に、精一杯生きていこうとする態度を育てたい。

4 本時の展開

○ねらい 自分が生まれたときのことを聞いたちえ子が考えを巡らせる姿を通して、一人一人の命の大切さについて考えさせ、多くの人々に支えられている尊い命を大切にしていこうとする心情を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 普段の生活で「生きている」と感じることを思い出す。 ○普段の生活の中で、「生きているな」と感じる時はどんな時ですか。 ・けがをしたり、病気になったりした時 ・何かに夢中になっている時 ・おいしいものを食べている時	◇児童が普段の生活を思い起こし、ねらいとする価値について意識を高められるようにする。
展開	2. 資料「生きているしるし」を読んで話し合う。 ○「わたしと全然にないわ」とつぶやいたとき、ちえ子はどんなことを思っていたのでしょうか。 ・楽しみにしていたのに…。 ・しわくちゃだな。 ・泣いてばかりだな。 ・想像していたのちがうな。 ○お父さんの話をきいて、ちえ子は、どんなことを考えたのでしょうか。 ・お父さんは、わたしの泣き顔をよろこんでくれたんだ。 ・元気に泣くのは、生きているあかしなんだな。 ・生きているってすごいことなんだな。 ☆わたしたち一人一人の大切な命を、どのように生かしていけばよいのでしょうか。 ・毎日を精一杯生きる。 ・いろいろなことに挑戦する。 ・友達と仲良くし、楽しさをもっと味わう。 ・自分や友達の考えや存在を大切に、良さを見つける。	◇ちえ子が、赤ちゃんに会いに病院へ行く日の様子に着目させ、見た目の印象だけで判断するちえ子の見方を押さえる。 ◇ちえ子が成長できたのは、父親や母親をはじめ、周りの人々が愛情をこめて支えてくれたからであると気付いたり、ちえ子自身も妹の命を見守り支える存在であることに気付いたりできるようにする。 ◇教材文を通してちえ子の考えの変化を追いながら、生命の尊さについて考えを深めてきたことや学級目標を基に、一人一人の大切な命を、どのように生かしていくか考えさせる。 ◇これまでの自分を振り返り、身近にある命の大切さを見直すきっかけとなるようにする。 ※多くの人に支えられている自分の命はもちろん、自分と関わる命も大切にしようと考えている。(ワークシート・発言)
終末	3. これまでの自分を振り返る。 ○自分の命が守られているように、自分にも守っていききたい命はあるのでしょうか。 ・家族の命 ・弟や妹の命 ・ペットや草花の命 ・異学年の子の命 ・これから出会う人の命	
	4. 教師の説話を聞く。	◇自身が大切にしていきたい命について話し、児童が命を大切にしていこうとする意欲を高める。

特別の教科 道徳」学習指導略案

5年 1組 36名
指導者 高橋 望

1 主題名 『自由とは』A- (1) 善悪の判断、自律、自由と責任

2 資料名 「うばわれた自由」(出典：光村図書 道徳5 きみがいちばんひかるとき)

3 ねらいとする価値

児童は、ややもすると、自由とわがままをはきちがえてしまうことも少なくない。自由には、他者や社会への責任が伴っていることを理解させていきたい。しかし実生活では、積極的な行動であっても身勝手な行動も少なくない。学校のリーダー的な存在として、自由の中にも、規律ある行動が必要なことについて考えさせたい。

4 本時の展開

○ねらい ガリユーとジェラルルの主張や思いを考える活動を通して、自由と規律ある行動の意義を理解し、自由を尊重し自律的で責任ある行動を取ろうとする実践意欲と態度を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 提示された「自由」の言葉からイメージしたことを発表する。 ○ 学校で「自由にしていいです。」と言われたら何をしたいですか。 ・ 体育と図工ばかり学習する。 ・ ずっと休み時間にする。校庭を使い放題にする。 「本当の自由」とは、どんなものだろう。	◇ 自分にとっての自由がどのようなものか考えさせ、児童が考える自由が必ずしも本当の自由ではないことから、めあてを設定する。
展開	2. 「うばわれた自由」を読んで、話し合う。 ○ 「あなた方が言っている自由というのは本当の自由とは申しません。」というガリユーの必死の訴えを聞くジェラルル王子はどんな気持ちだったでしょう。 ・ 自由なのだから、きまりを破ってもいいではないか。 ・ 俺は王子だ。したいことをしたいようにして何が悪い。 ・ ガリユーの考え方では、窮屈な世の中になる。 ○ 牢屋の中でジェラルルはどんなことを考えているでしょう。 ・ ガリユーの言葉に腹を立てずに言うことを聞けばよかった。 ・ ガリユーに申し訳ないことをした。 ・ 自分勝手なことをして国が乱れてしまった。 ・ 私が「自由」だと考えていたのは、単なる「わがまま」だった。 ☆ 「本当の自由」とは、どんなものでしょう。 ・ 周りに迷惑をかけないかをよく考えたうえで、自分のしたいことをすること。 ・ 自分の行動がどんな結果を招くかを考えて、自分を律し、責任をもって行動すること。	◇ 2人の考え方の違いを対比する。 ◇ 物語の前半からジェラルルの考えがどのように変わったのかを捉える。 ◇ 自分の行動が及ぼした影響についても考えさせる。 ※ 本当の自由とはどのようなものかを考え、自由に伴う責任の大きさを感じ取っているか。(ワークシート・発言)
終末	3. 自分の生活を振り返り、これからの自分について考える。 ○ 「自分勝手」と「自由」について考えましょう。「自分勝手」に行動しなくてよかったことはありますか。	◇ ワークシートを活用する。

「特別の教科 道徳」学習指導略案

5年 2組 35名
指導者 竹内 詩織

1 主題名 「きまりの意義」C- (12) 規則の尊重

2 教材名 「お客さま」(出典:光村図書「道徳5 きみがいちばんひかるとき」)

3 ねらいとする価値について

社会は様々なきまりの上に成り立っている。きまりを守らず自分の都合を優先する人を見たことで気持ちが晴れない「わたし」の姿を通して、きまりとは何のためにあるのかを考えさせる。そこから、自由や権利は規則の尊重や義務を果たすことで成り立つことを理解し、互いの権利を尊重し合い、必要なきまりを進んで守ろうとする実践意欲と態度を育てる。

4 本時の展開

○ねらい

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たそうとする心情を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 「権利」と「義務」という言葉の意味について確認する。 ○「権利」と「義務」の言葉の意味を知っていますか。 ・権利は「してもよいこと」、義務は「しなければいけない」	◇辞書で引いてもよいことを伝える。
展開	2. 教材文「お客さま」を読んで、話し合う。 ○「お客さまなんですよ」という言葉を聞いたとき、「わたし」はなぜびっくりしたでしょう。 ・お客さまだからと言って、何でも許されるわけではないから。 ・お客さまはその人だけではないのに、周りの人のことを全く考えていないから。 ○ショーの会場をあとにして、「わたし」はどのようなことを考えていたでしょう。 ・楽しみにしていたのに、全然見えなかったな。 ・権利ばかりを主張して良いのだろうか。 ・きまりには意味があるんだな。 3. 規則は何のためにあるのか考える。 ☆「きまり」は何のためにあるのでしょうか。ペアで話し合いましょう。 ・みんなが気持ちよく過ごすため。 ・秩序が守られるようにするため。	◇児童の反応を見て、必要なら、補助発問として、この男性が主張する見る権利は誰の権利かを考えさせる。 ◇「わたし」の気持ちを考える際、怒りにばかり目が向かないよう、考えている内容について考えるように声をかける。 ◇机間指導で、必要などころには声を掛けて支援する。
終末	4. これからの自分の生活について考える。 ○今日の話聞いて、今後どのように生活していきたいかワークシートに考えを書きましょう。	※「規則の尊重」という道徳的価値について多面的・多角的に考えて理解を深め、自分の生活をふり返っている。 (発言・ワークシート)

「特別の教科 道徳」学習指導略案

6年 1組 33名
指導者 落合 謙次

- 1 主題名 「差別のない社会を求めて」 C- (13) 公正、公平、社会正義
2 教材名 「私には夢がある」(出典：光村図書「道徳6 きみがいちばんひかるとき」)
3 ねらいとする価値について

公正、公平は、民主主義にとっての基本であり欠かすことのできない価値である。社会的な差別や不公平さなどの問題について考え、社会正義の大切さについての自覚を深めていくことで、身近な差別や偏見に気付き、それをなくそうとする態度や誰に対しても公正、公平に接する判断力を育てていきたい。

4 本時の展開

○ねらい 差別をなくすために尽力したマーティンの姿を通して、マーティンが目指す世界を実現するためにはどんな考えが大切かを考えさせ、社会的な差別や偏見などに向き合い、正義の実現に努めようとする判断力を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. 差別について、知っていること、感じていることを出し合う。 ○「差別」と聞き、どんなことを思い浮かべますか。 ・見た目のことで人を悪く言ったり避けたりする。 ・人種差別	◇児童から出た差別については、細かく整理せずに、おおまかに差別という問題意識を確かめる。
展開	2. 「私には夢がある」を読んで話し合う。 ○「マーティンの夢」とは、どんなものでしょうか。 ・差別のない社会。肌の色などで差別を受けることがない社会を築くこと。 ・誰もが平等に、自由に生きられる世界の実現。 ○アフリカ系アメリカ人の人々は、どんな思いで運動を続けたのでしょうか。 ・生まれついた肌の色などで、生活や生き方が限られるのはおかしい。 ・いつかは、白人の人も分かってくれるはず。諦めずに運動を続けよう。 ☆「マーティンの夢」を実現するために、私たちは、どのような考えや行動をしていけばよいと思いますか。 ・人を肌の色や見た目で差別しない。 ・女子だから、男子だからと考えることをしない。 ・自分の中にある人を差別する心をなくす。 ・自分の行動で、相手や周りの人がどう感じるかを考える。 ・差別だと感じたときは、止めるように言う。	◇文章の大事なところを引かせて「マーティンの夢」捉えさせる。 ◇アフリカ系アメリカ人の思いを想像するとともに、差別に勝とうとする強い意志に気付かせる。 ◇差別に対して闘おうというみんなの思いが社会正義や平等な社会づくりにつながっていくことを確認する。 ◇人種に関することばかりでなく、性別や家庭環境など、差別が様々なことに気付かせる。 ※公正、公平に互いの人間性を認めることが大切であることに気付いている。(ワークシート・発言)
終末	3. 学習のまとめをする。 ○今日の学習を通して考えたことを、ワークシートに書きましよう。	◇感想だけではなく、やっていきたいことや身近でできそうなことを書かせる。

「特別の教科 道徳」学習指導略案

6年2組 32名
指導者 小沼 繁徳

- 1 主題名 「かけがえのない命」 D- (19) 生命の尊さ
- 2 教材名 「おじいちゃんとの約束」(出典：光村図書「道徳6 きみがいちばんひかるとき」)
- 3 **ねらいとする価値について**

児童の身の回りには、命や人間の尊厳を軽視するものが多く見られる。また、日常生活では、自分と他者を比べたり、自分の長所や短所に一喜一憂したりして、自分が生きていることそのものの価値にまで目を向けることが少ない。

そのような状況の中、まず、「生きていることそのものが、尊い」と捉え、自分の命を大切に生きること、そして他者の命を尊ぶ心情を育みたい。

4 本時の展開

○ねらい 自分の生活を振り返ることを通して、命の大切さを感じながら、命の意味を深く考え、精一杯生きようとする心情を育てる。

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ※評価
導入	1. これまでの自分の経験を振り返る。 ○「死」という言葉を、簡単に使ってしまったことはありませんか。それは、どんなときですか。	◇「命」について自分はどのように捉えてきたのかを見つめ直させ、命の重みについて深く考えられるようにする。
展開	2. 「おじいちゃんとの約束」を読んで、話し合う。 ○テレビを切った後の信二の「いかり」と「なみだ」は、何だったのでしょうか。 ・軽い気持ちで「死」という言葉を使っていた自分を反省している。 ・「死んでこい。」なんて、軽々しく言ってはいけないんだ。 ☆信二は、「おじいちゃんとの約束」を、どんなふうにも果たそうとしていると思いますか。 ・「自分の命を大切に生きること」の意味を考え続ける。 ・自分らしく精一杯生きる。	◇ゲームの場面、祖父の言葉を受け止めた場面、お笑い番組を見た場面の信二の気持ちの変化を捉えさせるようにする。 ◇信二の気持ちの変化が視覚的に分かるように、児童の意見を板書していく。 ◇空を見上げながらつぶやいた信二の言葉に着目して考え、ワークシートに記入させる。
終末	3. ○「精一杯生きる」とは、どう生きることでしょうか。 ・他人と比べるのではなく、自分らしく生きること。 ・一日一日を後悔のないように生きること。 ・自分を信じて、一生懸命に生きること。	◇全体で話し合う前に近く友達と互いの意見を聞き合うことで、全体の話し合いで発表しやすい雰囲気をつくる。 ※他者や自分との関わりを通して、命の大切さについて考え、これからの生活をよりよいものにしようとする考えをもつ。 (ワークシート・発言)
	4. 命の重みや大切さについて、自分との関わりで考える。 ○命の重みや大切さについて、今の気持ちや考えを書いてみましょう。	◇これまでの自分の生活を振り返らせながら、命の大切さを深く捉え、これからの生き方を考えられるようにする。